

第5回 日本クラブユース女子サッカー大会(U-18) 参加レポート

岡山県2級審判員 友宗菜月

<大会概要>

- ・大会名；第5回 日本クラブユース女子サッカー大会(U-18)
- ・主催；公益財団法人日本サッカー協会、一般財団法人日本クラブユースサッカー連盟
- ・主管；関東クラブユースサッカー連盟、公益社団法人群馬県サッカー協会
- ・期日；2023年7月31日(月)～8月7日(月)

7月31日(月)	グループステージ	第1日
8月1日(火)	グループステージ	第2日
8月2日(水)	休日	
8月3日(木)	グループステージ	第3日
8月4日(金)	準々決勝	
8月5日(土)	休日	
8月6日(日)	準決勝	
8月7日(月)	決勝/3位決定戦	

- ・会場；前橋総合運動公園群馬県陸上競技場・サッカー場
ロード宮城総合運動公園陸上競技場
コーエイ前橋フットボールセンターA/B/C/D
前橋広瀬サッカー場※元 前橋市立広瀬中学校
アースケア敷島サッカー・ラグビー場
群馬県立敷島公園補助陸上競技場

<研修会>

今大会が始まる前にオンライン研修会が2回行われました。第1回では出会い、大会テーマの確認、競技規則の精神について、競技規則の改正の4つについて講話していただきました。まず、始めに大会に参加するにあたって多くの方々との出会いを大事にすること、そして、「あなたに出会ってよかった」と思われる人を目指して大会に臨もうと思いました。次に大会テーマについてです。テーマは「サッカー競技規則の精神を理解し、試合を正しく進める」ことです。試合を正しく進めるために、ゲームの流れを読んだレフェリング、ゲーム運営(負傷者の対応・時間の管理)、フリーキックマネジメントを特に意識して取り組むことを心掛けようと思いました。そして、審判員は競技規則を理解し、安全・安心、公平・公正を保障し、サッカーが何を求めているのか、何を期待しているのかを常に考えること、また、ゲームの中でサッカーに関わる人たちに、特に競技者のために最高の試合を目指すことが責務である

ことを教えていただきました。

第2回では、第1回の振り返り、フリーキックのマネジメント、ディスカッションを行いました。まず、フリーキックマネジメントの向上のきっかけになることを教えていただきました。フリーキックの定義はキッカーがまったく邪魔をされずにボールを蹴ることができる特権で、反則を受けたチームが不利になってはいけません。また、クイックフリーキックも保障しなければなりません。そのために、チーム戦術、競技者の意図・心理、試合展開に気づくことが大切であることを教えていただきました。

次にディスカッションについてです。1つの事象に対して、数人に分かれて、レフェリーの状態がどうであったか、またより良くするためにどうすればいいかディスカッションを行い、その後全体で共有しました。ファウルかノーファウルか、正しく判定するために常に状況を把握し、準備することが大切であることを教えていただきました。

<担当試合>

8/3(木) グループステージ第3日
湘南ベルマーレ U-18 ガールズ vs FC ゼブラレディース岩手・グロリア (主審)

8/4(金) ノックアウトステージ第1日
セレッソ大阪ヤンマーガールズ U-18 vs JFA アカデミー福島 (副審1)

<担当試合の振り返り>

●主審として

私が担当した試合はグループステージ第3日の試合だったので、第1日、第2日の結果から点差が開く試合であることは事前に予測されていました。そのため、チーム戦術を理解して、試合展開を読んだ走りをするのを心掛けました。

今大会では、飲水タイム・CoolingBreak 実施パターンがAパターン(WBGT値によらず実施、CoolingBreakのみ)、Bパターン(WBGT値30℃前後以上で実施、飲水タイムとCoolingBreak)、Cパターン(WBGT値32℃前後以上で実施、飲水タイム2回とCoolingBreak)の3パターンのいずれかで行われました。私が担当した試合では、前半にBパターン、後半にCパターンを適用しました。最初の飲水タイムを取るタイミングが遅れてしまい、次のCoolingBreak、飲水タイムが詰まった状態で取るかたちになってしまいました。タイミング良く取れないと選手のしんどい時間が続くことになるので、反省し次に活かしていきたいと思えます。

●副審として

常にオフサイドラインをキープし、特に難しい判定もなく集中して取り組むことができました。

た。前半は緊張もあり、主審の方とアイコンタクトが取れていなかったですが、後半では意識し、アイコンタクトを取ることができました。

<まとめ>

地域での活動よりも気温が高かったですが、70分間集中して取り組むことができました。飲水タイム・CoolingBreakでは、今大会の特別ルールで、WBGT値により3パターンでの実施になりました。今大会で特に意識すべきマネジメントだったので、今回の経験を活かし、今後の活動で取り組んでいきたいと思います。また、今大会のテーマ「サッカー競技規則の精神を理解し、試合を正しく進める」ために、ゲームの流れを読んだレフェリング、ゲーム運営、フリーキックマネジメントを意識することは私自身の課題でもあるので、これからも取り組んでいきたいと思います。

今大会の準々決勝では、女子1級の方と組ませていただき、良い刺激を受けました。今大会を通して出会えたインストラクターの皆様、審判員の皆様と、また審判ができるよう精進してまいります。三日間ありがとうございました。

第4回日本クラブユース女子サッカー大会(U-18)

派遣審判員レポート

氏名	時高美紅	所属	山口県
期間	7月31日～8月1日		

7月31日

1日目は、宮城総合運動競技場でした。

ジェフ千葉 vs アルビレックス新潟の試合で主審を担当させていただきました。

まず、この試合における反省点として、2つあります。

1つ目は、くさびに入った時のポジショニングです。くさびに入った際、串刺しで見ていることが多くありました。

改善点として、動き出しを早くし大きく幅を使い、副審と挟んで見れるように意識することが挙げられます。

2つ目は、アディショナルタイムです。今回の試合は熱中症対策により、WBGT 次第では飲水2回または、クーリングブレイク+飲水など変則的なルールとなる試合でした。

私が、アディショナルタイムの表示を忘れていた場合、副審と第4審で決めていただき、その時間を伝えると、試合前の打ち合わせをしていました。しかし、アディショナルタイムの表示が遅れたのち、新たに私が第4審に表示をしました。

原因としては、時計を流してる方と止めている方を勘違いしてしまったということです。今回の変則的なルールに合わせて時計を止めて測ることをしたのですが、このようなことが起きました。

改善点として、変則的なルールを理解した上でミスがないように行う。また、クーリングブレイクなど時間を止めて測るものに対しては、他の審判と協力し役割分担をするなどが挙げられます。

次に、この試合での良かったことです。

この試合を行い、戦術理解をし予測して動くということが出来ました。予測したからこそ、得意としている速いスプリントが行えるので、今後も続けたいと思います。

8月1日

2日目は、NTT 関南スーパーグラウンドでした。

ノジマステラ神奈川 vs ヴィアマテラス宮崎の主審を担当させて頂きました。

この試合の反省点としては、アディショナルタイムです。第4審が運営本部の会場責任者と兼任されていることもあり、伝える場面で距離がありうまく伝わらないということがありました。

昨日の反省とは少し違いますが、2日間ともアディショナルタイムの件での反省が挙げられているので、すぐ改善しなければならないところだと思います。

次に、良かったところです。

今回の試合の目標は「ゴール前のリスク管理」でした。意識的に目標に向かって走ることができ、シグナル・笛の強弱など褒めていただける場面が多かったです。

また、身のこなしの面でボールを見ながら体の向きを変えらるということ褒めて頂き、今後も続けたいと思いました。

そして、今回の良かったことを踏まえて、さらに良くなるようインストラクターの方から、「スプリントの走り出しを0.5秒はやく」というアドバイスを頂きました。ほんの0.5秒で変わることを理解し次の試合から意識して行いたいと思います。

最後に、この研修で学んだことを、これからの地域研修や、審判活動で活かしていきたいと思いました。

今回の研修会に参加させて頂きありがとうございました。

